

社団法人
東京電機大学校友会

千葉県支部だより

第10号

平成19年5月1日

事務局

千葉市稲毛区緑町
1-5-8

高率電設(株)内

TEL 043-242-1539
FAX 043-242-1884

支部だより第十号発刊にあたり

支部長 松本 宏

校友会千葉県支部の皆様には益々ご健勝にてご精励のこと、お喜び申し上げます。

この度「支部だより第十号」を発刊する運びとなりました。

これは関係各位及び諸先輩方のご指導・ご協力の賜であり、ここに改めて厚く御礼申し上げます。次に御礼申し上げます。それは、昨年の総会案内にてお願いいたしました学園創立一〇〇周年に「千葉県支部独自の金三十万円募金」の件であります。

この支部だよりの裏面に掲載させて頂きましたとおり、「皆様の協力」により目標を達成し、募金させて頂きました。誠に有難う御座いました。

さて、今年初雪が降る前に、春一番が吹くなど、異常気象が続いています。国連の気候変動に関する報告では、今世紀末には、地球の平均気温は六・四度上昇し、この影響で海面上昇は五九センチ、低地水没、異常気象、農漁業や健康への悪影響も懸念されます。

又、野生生物の生息地や水源に重要である多くのブナ林が消滅する可能性がある。

冬眠が出来ない熊や、ヘビの出没はそんな時代の前触れかもしれない、と新聞報道されています。その原因は「地球温暖化」が主であり、一人一人がそれを認識し、努力してゆ

かねばならない、課題である、と思います。

一方サリーマン世代では戦後のベビーブーム、いわゆる「団塊の世代」の六八四余万人の定年が始まります。そして大学は全入学時代へと突入して行く年であります。各大学も生き残りを掛け、懸命です。東京駅に「新・大学街」と題して、今年三月に完成した「サンピアタワー」に立命館大学の新設を始め十数大学が事務所を移転し、全国への発信拠点としました。この激動する年に我が母校は「創立一〇〇周年」を迎えます。その記念事業の一環として、新学部【未来科学部】を立ち上げ、全学改変を実施し、その結果は成功であったと聞いております。その成功をバネに、今こそ千葉県支部の皆様を初め、学園にかかわりのある全ての人『加藤学園理事長の言われる東京電機大学人』が「恩返し」の志をもつて一枚岩となり、この一〇〇周年事業に全員参加で大成功を収められる様、最善を尽くす時であります。終わりにあたり、今後共千葉県支部の会員各位のご健勝、ご多幸をご祈念申し上げ、併せて支部の充実・発展にご指導、ご協力をお願い申し上げます。支部だより第十号発刊のご挨拶とさせて頂きます。

ご挨拶

学校法人東京電機大学理事長 加藤康太郎
いよいよ学園創立100周年の年となりました。

本学園にとりまして大きな節目の年であり、平成17年には改革元年を宣言し、昨年は改革2年目として全学改編と新学部の創設を決定し、100周年記念事業とあわせてその準備を進めてまいりました。

昨年は本学が進めてきたことと今後の見通しについて私の考えを示し、皆様のご理解とご協力をお願いしたいと存じます。

1 東京電機大学の全学改編と未来科学部創設

この4月より未来科学部を開設し、工学部と理工学部を改組しました。

平成20年度は工学部第二部の改組を予定し、さらに情報環境学部は引き続き定員増を実施します。

理工学部は大きい一つの学科内にサイエンス、情報システムデザイン、創造工学、生命理工の4つの学系で構成します。

2 創立100周年記念広報及び全学改編等推進プロジェクトの設置と推進

全学的改編の継続の実施と創立100周年記念事業推進の有機的連携による広報効果を目指し、通称「プロジェクト・アトム」を設置いたしました。手塚治虫の人気アニメ・鉄腕アトムをキャラクターにしたこのプロジェクトの積極的な展開により、本学の認知度向上、ブランド回復を強く期待するものです。

3 財政基盤の確立

全学改編・新学部設置を推進するためにも、財政基盤の確立は重要課題であります。そこで財政健全化委員会を昨年6月に設置し、平成19年度から4年間での健全化を検討し、すでに答申が提出され一部は平成19年度予算にも反映させるべく作業を進めております。

4 創立100周年記念事業の推進

昨年は全国6会場で開催100周年記念講演会

を開催し、一般の方にも多数ご参加を頂きました。ご寄付も、卒業生・父母教職員など関係各位のご芳志を多数頂いておりますが、引き続きご協力をお願い申し上げます。9月11日の記念式典は日本武道館において挙行し、宇宙飛行士毛利衛氏の記念講演と、帝国ホテルでの祝賀会開催の準備を進めているところです。100年史についてはすでに原稿が揃い、編集作業を経て平成19年度末には皆様のお手元にお届けする予定です。

神田キャンパス再整備計画は、既に総合設計制度を活用した最大計画から現行の一般法規による中規模計画まで検討いたしました。昨年は新たな第3の方策も視野に入れ、理事長の責任において調査検討しているところであります。本学始まって以来の大事業でもあることから慎重に扱っておりますので、ご理解の程よろしくお願い申し上げます。

5 研究推進体制と産官学共同推進体制の充実

産官学交流センターを改組し、新たに研究企画室を設置いたしました。研究者モラルの高揚、特許申請数の増大、技術移転、受託研究の拡充等産官学共同をさらに推進いたします。

私はこの創立100周年を機に「東京電機大学人の基本姿勢」として学内外に宣言したいことがあります。

1. 私達は、技術の教育・研究を通して社会に貢献する人材を育成します。

2. 私達は、技術を通して社会貢献したい人のために学校を運営します。

3. 私達は、学生・生徒を最優先に考え、優れた教育に価値をおきます。

4. 私達は、学生が活気溢れ、卒業生が活躍することを誇りとしています。

5. 私達は、時代をリードし社会が求める人材育成で、常に変革していきます。

これらのことが実践できれば、「学生・生徒が輝く学校」となり「学生が主役の学校」になると確信しています。

本校校歌の一節を思い出して下さい。

「大いなる歴史の中で、

われら新しい真理を創る」

「大いなる時空をめざし、

われら新しい文化を創る」

この校歌のように実践し社会から尊敬される東京電機大学にしようではありませんか。全東京電機大学人のご理解と絶大な「ご協力」をお願い申し上げます。

千葉県支部の皆様へ

(社)東京電機大学校友会理事長 岡田 榮一

校友会千葉県支部の皆様には日頃支部主催にて講演会や見学研修会を開催され常に研鑽に努められていることに深く敬意を表しますと共に、学園行事や校友会活動に積極的なご協力いただいておりますことに感謝申し上げます。

申すまでもなく校友会の活動は、学園の発展に協力した学園と連携をとりながら、卒業生及び在校生に対して諸活動を通じ様々なサービスを提供していくことであります。特に卒業生について直接的には校友会総会・評議員会・各県支部の総会や職域電機会を通じて、また間接的には工学情報やホームページを通じて働きかけをしております。

その様な中で、県支部の設立を積極的に行い昨年の長崎県支部と熊本県支部に続き今年の3月には岩手県支部が設立され、これで日本全県に校友会支部が設立されました。

また、首都圏においては職域電機会を通じ、

校友会会員増強並びに活動を行っているところであります。

これらの活動に際しては、学園の先生方に多大なご協力を仰ぎ、講演会や見学会等を開催していますが、校友会員の啓蒙と、公益法人として一般の皆様にもご参加頂いております。特に昨年は学園主催の創立100周年記念公開講演会が、札幌、仙台、新潟、高崎、福岡、名古屋の六会場において校友会各県支部が絶大なご協力の下に盛会裏に開催することができました。

このように様々な活動を通じて、校友会は卒業生と学園に貢献したいと考えておりますし、学園の卒業生であるという帰属意識の高揚を図りたいと考えます。

さて、学園を取り巻く環境は18才人口の減少、理工系大学への受験生の減少等、益々厳しい方向に進行しております。その様な中で学園においては創立100周年を契機に意欲のある優秀な学生確保のため、この4月から新学部「未来科学部」が開設されました。それに伴う工学部及び理工学部の学部再編成、そして神田キャンパスを再整備する等着々と手が打たれています。組織機構だけではなく意識の変換も含めた改革が早期に実行されなければ取り残されるだけではなく、学園の存続自体危ぶまれることとなります。今では、各大学が「待っているだけでは、優秀な人材が集まらない」と危機感を持ちあらゆる手立てで優秀な学生を集めるべく努力しております。

これらについては、校友会も大きな感心を持っておりその協力を惜しむものではありません。

本年は「学園創立100周年」の記念すべき年を迎えましたが、東京電機大学に学んで良かったと言える魅力ある学園になることを、

校友会として応援したいと思っております。

最後になりますが、学園が発展し、創立100周年の記念事業が盛大に挙行されますよう皆様方と共に大いに協力と努力を続ける所存であることを申し上げます。

「東京電機大学未来科学部」の発足にあたり

未来科学部長 大園 成夫

東京電機大学校友会千葉県支部の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、千葉県支部だより第9号に加藤学園理事長が述べておられますように、本年4月に東京電機大学の第5番目の学部として「未来科学部」が誕生いたしました。未来科学部は、建築学科、情報メディア学科、ロボット・メカトロニクス学科の3学科から構成され、1学年当たり学生定員30名の東京電機大学の中では工学部、理工学部について3番目の規模の学部です。

未来科学部が誕生するまでに多くの曲折がありました。今日ここに学部第1期生の学生諸君を迎えるまでになったことを心から嬉しくまた有難く思っております。ひとえに学内関係者の献身的なご尽力の賜物であると感じ申し上げます。特に校友会の諸先輩、会員の方々には未来科学部の広報活動について一方向らぬご助力、ご尽力を頂きました。

昨年3月ころ、文部科学省への設置届出を目前に控え、新学部の広報活動を開始いたしました。広報を始めるに当たり最も苦慮したことは、全国の高校生諸君に、我々の新しい学部のことを知ってもらうには、どうしたらよいかということでした。そのとき私達の目には校友会という組織がほとんど宝の山のように映りました。校友会が全国に張り巡らせておられるネットワークを利用してもら

うことができれば、こんな効率的な広報活動はないというのが我々の考えでした。加藤学園理事長から折々に何うお話から想像すると東京電機大学の発展のために校友会をもっとも活用すべきというお考えのようにお見受けしました。

しかし、我々の力不足のためになかなか思うように校友会との連携が取れないまま時間が過ぎてしまい、昨年9月末の校友会支部長会議でやっと本格的に未来科学部のことを皆様にお話する機会を与えられました。その後、校友会事務局のご好意により校友会の諸行事の折にできるだけお話しする機会を設けていただきました。そのような機会の中で、松本支部長様にお目にかかることができ、こうしてまた未来科学部のことをご紹介させていただく機会を与えていただいた次第です。

幸い、高久常務理事、稲毛事務局長様にはほんの1、2年の知己にもかかわらず百年来の友人のごく接していただいております。また学部事務担当の天谷課長は校友会事務の経験があると云うことですので、今年度はさらに緊密に連携させていただいて、未来科学部のことを優秀な学生諸君にわかってもらうように努めたいと思っております。同時に、校友会のために未来科学部が持っている資源を有効にご活用いただければと念願しております。

未来科学部は、「プロの能力、豊かな教養」ということを学部教育の理念として掲げております。プロの能力は、社会に出たときに確かな仕事ができる即戦力を持った学生を育てること、豊かな教養は、広い視野から俯瞰的に物事を見ることが出来る学生を育てることであると考えております。もしこの理念にご賛同いただけるならば、是非私達に手を差し伸べていただき、未来科学部の発展のためご

助力賜りますようお願いいたします。

最後になりましたが、千葉県支部の皆様のお力により、千葉県支部の発展と健康をお祈り申し上げます。

創立100周年記念事業の推進状況について

(※東京電機大学創立100周年記念事業推進本部)

前本部長 円谷 幸一郎

学校法人東京電機大学は、本年9月11日に、創立100周年を迎えます。

この記念すべき年に際し、創立100周年記念事業を展開しております。事業の概要につきましては、昨年の千葉県支部便りにも掲載を差し上げましたので、現在（平成18年度）の状況をお知らせいたします。

1. 新学部の開設と学部の改編

平成19年度より、神田キャンパスに未来科学部（3学科）を新設いたしました。また、工学部第一部は、工学部（4学科）に、理工学部は理工学部1学科に再編いたしました。

2. 神田キャンパス再整備事業

創立100周年記念事業の中核でもある100周年記念館（仮称）の建設については、昨年理事長宛に答申書が提出され、この答申に対し、理事会はここ数年にわたる志願者の減少という私学経営の根本に係わる問題をも念頭におきつつ、主に財政的な面から慎重に検討を行っており、早急に具体性を持った再整備計画を決定する予定であります。

3. 先端的研究教育拠点の形成

e-Campus構想として、次の3点が、平成18年度より運用が開始されました。

- ① キャンパス間ギガビットネットワークの開通（0.5 Gbps）
- ② 遠隔講義システム（平成18年度は8科目利用されました。）

③ IPTV会議システム（ほぼ毎日利用されました。）

4. 創立100周年記念式典、記念講演会の挙行及び祝賀会の開催、各種記念行事の実施等

創立100周年記念式典は、平成19年9月11日午前10時より、日本武道館において、記念祝賀会は、平成19年9月11日午後1時30分より、帝国ホテルにおいて執り行う予定です。なお、式典終了後開催される記念講演の講師は、毛利衛氏（宇宙飛行士）を予定しております。

また、産官学記念講演会については、9月3日（月）に、神田キャンパスを中心に各キャンパスに映像配信する予定で講師等の準備を進めております。

以上の事業は、多くの皆様のご厚志を予定のもとに進めており、何卒格別なご支援を賜りますようお願い申し上げます。記念事業募金への寄付者すべての方につきましては、「芳名録」に未永く顕彰させていただきますが、個人累計3万円以上、法人・団体、10万円以上の寄付につきましては、「寄付者銘板」に記載し、学内に設置して「芳名を未永く顕彰させていただきます」。

千葉県支部の皆様方には、よろしくご協力とご支援をいただきたく御願ひ致します。

なお、平成19年3月31日現在の募金応募状況については、卒業生関係者で、89,372,540円（1,942件）、総額で405,016,540円（3,356件）のご厚志を頂戴しております。

千葉県支部役員会及び見学会開催報告

副支部長 徳久 昌之

十一月六日千葉県支部役員全員を対象にした役員会を参加者十九名の基、成田市で開催

致しました。一年前から成田空港を見学して成田市内で役員会を開いてみたらと言う黒沢幹事の意向もあり八月の常任幹事会で議題になりました。支部旅行も兼ねられないか等の意見も出、早速田中副支部長と徳久と九月二十九日空港の黒沢様を訪ね状況把握と日程や見学のポイント、会議の会場、懇親会場等打ち合わせを行いました。その結果、セキヨリティーの関係で支部会員全体での見学会は不可能で役員を対象に見学をさせて貰う事で大筋合意致しました。常任幹事に報告承認を得早速準備に取り掛かりました。日程調整、見学コース、役員会懇親会会場、会費、出席者の名簿、案内文作成等電子メールを活用し支部長始め常任幹事や黒沢さんとやり取りを行い、全役員に最終案内ができたのが十月初旬でした。その後は出席者の名簿を空港に提出しなければならず、住所電話番号のみならず氏名のフリガナ、勤務先肩書き等まで明記するという事で出席者の皆様には何度も問い合わせ等で面倒をお掛け致しました。又個人情報保護の観点で名簿も公にできず大変苦労しましたが、その甲斐もあり当日空港駅出札の所での集合も入港もスムーズに行きました。

迎えて来て頂き、各部署の説明をして下さったのは、卒業生で空港関係のお仕事をされている大嶋様・実川様そして磯崎様でした。見学に移り中央受配電設備、特高受配電設備、コシエネレーション設備、中央監視制御室を見学致しました。私自身技術の事は全く分からないのが残念でしたが大きさにびっくりしたり、安全のための幾重にもバックアップされているシステムに驚かされたり、何と云っても本場に親切丁寧に説明をして頂いた事に感激でありました。その後空港関係者専用の構内バスで移動、日本航空の格納庫を見学致

しました。ここは丁度ジャンボ機の内装のリフォーム中で周りを足場で囲い内部の見学やコックピットの中まで案内して頂きました。内装のみかと思ったら、外部ではエンジンや換気の点検等でした。この作業を見て航空に整備をしていました。この作業を見て航空運賃は安いと全員が感じました。ジャンボジェット機を背景に全員で記念撮影を行い見学が終了致しました。

役員会会場「翁」のバスが迎えに来てくれて、到着後早速役員会が開催されました。松本支部長の挨拶進行の中、学園や百周年記念事業の説明、今後の予定等の説明があり役員会を終了致しました。続いて懇親会に移り空港関係者卒業生も参加、飲み放題と素晴らしい料理を堪能、お酒も入り大いに話も弾み楽しく盛り上がる事が出来ました。

今回の役員会も盛会の内終了致しましたが、この企画が成功致しましたのも黒沢様始め空港関係者でお仕事をされている卒業生の皆様の暖かいご支援の賜物と感謝で一杯であります。今後共校友会千葉県支部の為に指導、ご参加をお願いし報告とさせていただきます。

続ヒマラヤトレッキング(一)

昭和三十四年卒 田中 豊明

昭和二十五年にフランス隊が世界初の八千米峰アンナプルナー峰（八〇七八米）に初登頂。昭和二十八年英国隊が世界の最高峰エベレスト（八八四八米）の登頂に成功、昭和三十一年に日本隊がマナスル（八一二五米）に初登頂と、世界各国の遠征隊が、世界の屋根ヒマラヤの八千米峰の登頂に成功しました。

昭和三十三年に京都大学山岳会がチヨリザ（七六四〇米）の遠征に成功するに至って国内各大学山岳部のヒマラヤ遠征熱がますます

ます高まってくることになりました。その様な時代背景のなか、昭和三年東京電機大学二部山岳部が創設され、その二年後にOB会（錦稜会）が誕生しました。

山に魅せられた山男達の憧れはヒマラヤですが、仕事の現役時代には、夢の世界です。

その錦稜会も逐次定年退職者を迎えました。ハードな登山は無理なロートルOBが、ヒマラヤのトレッキングに行くことになりました。毎年計画され、新しい人を含め二度三度、多い人は六回も行きました。

憧れのヒマラヤへ四〇年以上付き合ってきた錦稜会のメンバーで行くのだから楽しいです。私も気心の知れた仲間と四回もネパールヒマラヤを楽しんできました。

平成一三年のエベレスト街道のトレッキングについては支部だより六号七号で、平成一五年三月のランタンヒマールのトレッキングについては八号九号で紹介しました。

平成一七年一月に錦稜会員六名で三日間エベレスト街道のトレッキングをしました。五三六〇米のゴキョピーク、更にゴズンバ氷河の五〇三〇米地点まで行き、エベレストをはじめ八千米の高峰四座と六〇七千米級の山々に囲まれて、楽しいトレッキングでした。

昨年一月に錦稜会員四名で、ジヨムソン街道のトレッキングを楽しんできました。

今年はバルト口氷河を渡る旅か、マナスル連峰にしようかと計画を練っています。

四回もの同じネパール行きで多くの人々と出会い、見聞きして来ましたが、その中のいくつかを思いつくまま紹介しようと思います。

オムニペメフ（南無阿弥陀仏）

トレッキング中体力の無い私は錦稜会の仲間について行けず一人遅れて歩いていることが多い。サード（案内頭）はそんな私の背

後にピッタリと付いて歩きながら「オムニペメフ、オムニペメフ……」と呟きながら付いてくる。我々が「南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏……」と唱えている様なものだ。休憩時に何故お経かと問えば「皆さんが無事にトレッキングが出来ることを祈りしているのです」とのこと。

チベット仏教圏の村々にあるゴンパ（寺院）ストウパー（仏塔）マニ（経文石）家々にあるタルチョー（祈願旗）や、人々の祈りの念は並々ならぬものがあり、信仰心の厚さを感じた。

過酷な自然環境で生活をしていくためには只々、なにものかに祈り願うしか無いのか。

（次号に続く）

第36回千葉県支部通常総会報告

副支部長 花井 卓郎

第36回通常総会が平成18年6月10日（土）母校の千葉ニュータウンキャンパスに約60名の出席者を得て開催された。

総会に先立ち公開講演が「人間関係がうまくいく心理学」と題して、情報環境学部専任講師の今野紀子先生により「人間関係を快適にするコツ」が分かりやすく説明され、近隣の方を含めた約80名の参加を戴き、参考になる良い講演と好評を博した。

講演後総会に入り、冒頭、支部長より総会開催の挨拶と学園創立100周年への協力をお願いが行われ、引き続き、加藤学園理事長より「未来科学部」の新設、全学的な学部の改編実施について、並びに平成19年の創立100周年記念式典を日本武道館で行い、記念講演として「毛利 衛」氏を予定しているとの発表があり、卒業生の理解と協力が要請された。また、岡田校友会理事長からは、全国支部とし

て新たに長崎、熊本両支部の設立報告その他、並びに100周年記念事業募金への協力要請が行われた。

議事に入り、平成17年度事業・決算報告、平成18年度事業計画・予算、及び役員改選・増員の件等につき審議が行われ、承認された。

総会後、産学協同研究の成果である「首都圏初の大学キャンパス風力発電設備」の見学会を実施、西方学生支援センター長により高品質、低騒音等の解説が行われた。

懇親会は、会場を福田ホールに移し、記念写真の撮影後、浅見創立100周年記念事業推進本部次長、村田大学同窓会長よりご挨拶を戴き、中村学部長様、横田経営同友会長様、高田事務部長様、笹川事務局長様、山村課長様をはじめ多数の方々のご出席を戴き、和やかなうちに盛り上がりを見せ、喜多村副支部長の中締めで閉会となった。

最後に、校友会事務局、千葉キャンパス事務部の皆様には大変お世話になりましたこと心より御礼申し上げます。

学園創立100周年記念事業寄付御芳名(敬称略、順不同)

皆様のご協力で校友会千葉県支部として30万円集まりました。ありがとうございました。

御 芳 名	卒業年度	金額 (円)
石 井 啓 吾	S29	3,000
石 川 善 二	S33	5,000
小 川 力	S54	7,000
多 賀 松 英	S43	10,000
寺 田 一 雄	S16	10,000
村 松 成 夫	S38	5,000
八 本 輝	S36	5,000
大 石 博 (常任幹事)	S63	10,000
大 塚 武 昭 (常任幹事)	S42	30,000
岡 野 敦 (幹 事)	S50	10,000
岡 野 勇 (幹 事)	S42	10,000
小 川 重 二 (相談役)	S28	10,000
喜多村 賢一郎 (副支部長)	S35	10,000
杉 沢 順 一 (相談役)	S27	15,000
鈴 木 力 (幹 事)	S42	10,000
関 泰 雄 (相談役)	S26	10,000
高 橋 洋 二 (幹 事)	S48	10,000
匠 勇 治 (幹 事)	S38	10,000
田 中 豊 明 (副支部長)	S34	10,000
竹 内 圭 司 (幹 事)	H04	10,000
竹 内 保 (相談役)	S22	10,000
徳 久 昌 之 (副支部長)	S44	10,000
花 井 卓 郎 (副支部長)	S35	10,000
堀 岡 祐 吉 (幹 事)	S44	10,000
増 田 修 一 (幹 事)	S47	10,000
松 本 宏 (支部長)	S33	10,000
松 本 武 (副支部長)	S39	10,000
茂 木 仁 博 (幹 事)	S51	5,000
山 本 隆 洋 (常任理事)	S55	5,000
山 本 忠 雄 (監 事)	S27	10,000
横 田 良 一 (監 事)	S45	10,000
合 計		300,000

千葉県支部総会と講演会

見学会及び懇親会のご案内

六月九日（土）午前十一時より第三十七回千葉県支部総会と講演会・見学会及び懇親会を開催します。詳細は別紙同封しました【ご案内】をご覧ください。

編集後記

記念すべき「支部だより第10号」ができました。第1号が発刊されてから10年になりました。以前は千葉県支部の皆様から趣味の話、千葉の歴史、地元のお祭り、登山などいろいろな原稿を頂きました。今年は学園創立100周年の年の為その関係が主に成りましたが、「支部だより」です。次回には、是非支部の皆様、例えば俳句・川柳・園芸・旅行・地元の歴史など、又は他の方々に伝えたい事、ご意見、トピックをどしどし事務局までお寄せ下さい。